

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は開所当時管理者と職員で作ったもの。その後入職時に伝え、ミーティングで定期的に理念について話し合うこともある。直近では11月の認知症ケアの研修で実施している。	事業所の理念を掲げており、理念の実践ができるように職員も個人目標を設定しているほか、定期的に理念を確認したり、玄関や事務室にも理念を掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行なっているコツコツ貯金体操に参加。柏崎市の図書館から1ヶ月に1回貸し出し本が来る。町内に協力、ご祝儀として協力、活動に賛同し特に青年会壮年会主催の祭りには神楽がきて楽しんでいる。	語りべやウクレレのボランティアの方が来てくれたり、町内で行なっているコツコツ貯金体操にも参加しています。また、町内のお祭りの際は神楽にも来て頂くなどし、地域との交流を深めています。	保育園や小学校とも定期的に交流が持てるようにし、ご利用者が子供と触れ合う機会を持たれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型DSをするようになり、市内の困難事例を受けいれている。受け入れてもGHの利用者とともに穏やかに過ごしている。ご家族や居宅からも認知症ケアを認めてくれる発言が多くなった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の参加、市役所介護高齢課、町内会 地域包括からの出席があり、意見取り組みについて実践できるようミーティング等で報告し改善を図っている。(重度化した方が多く他の利用者様の外出等について)	2ヶ月に1度、市の担当者、地域包括支援センター職員、副町内会長、民生委員、ご家族などに参加していただき運営推進会議を実施し、そこでの意見を職員等にも周知し、サービス向上につなげています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度からGHの利用者の更新調査を請負っている。その他質問事項等はそのつど担当者にお聞きし、活動に活かしている。	市の担当者とは運営推進会議への出席も含めて、協力関係ができています。また、市主催のグループホーム連絡会は集団指導も兼ねており、事業所の見学やテーマ検討も行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待防止の研修をミーティング等で行い絶対してはいけないことを学習し日々取り組んでいる。現場では知らない間のスピーチロック、夜間、介助が重なる時にベッド柵で短時間囲う等行うことがあるとの事。	身体拘束をしない方針であり、玄関の施錠も基本的に夜間帯のみとしています。また、毎月のユニット会議で研修の機会を設けたり、職員の言葉の遣い方についても気になる点は指導するなど、職員の理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学習した。共用型DSの利用者様の家庭環境についても虐待等の兆候があることを居宅に報告し防止に努めている。	身体拘束同様に、毎月のユニット会議で定期的に研修の機会を設けています。普段の生活の中でも対応について考えながら、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおられ、担当の後見人様との連携を図って支援に反映している。権利擁護については職員全員が理解している内容ではないので、今後研修が必要だとの意見あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は十分に説明し、理解・納得を図っている。その中でも年毎の加算についてはどの程度加算されるか等金額についても示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にこられるご家族から希望や意見をいただくことがある。職員の態度や活動などは運営に反映し、研修に取り組んだ。	ご家族の面会時に意見や苦情を確認しているほか、運営推進会議にて要望の確認や、行事でご家族がホームに来られた時にも確認をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングで運営等の現状を報告し、意見を頂き運営に(購入品等や方法等)反映できるようにしている。	率直な意見や提案が職員間で共有できるように、毎月のユニット会議にて職員の意見を確認する機会を設けています。また、管理者が職員に対して個別面談を定期的実施し、職員の意見や要望を把握するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格支援について希望を聞き、それに見合った研修等に参加できるよう配慮している。家庭環境の変化や労働時間等についてもそのつど聞きながらシフトに反映するようにしている。まだ職員全員の意に添える環境ではないかもしれない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量は把握し、力量に合った研修に参加している。ユニット間で二人対応での介助を取り入れ、日々の介助等でトレーニングの機会を作っている。法人内外での研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症サポーター講座への参加や実践者研修等で交換研修を行なった。柏崎刈羽介護支援専門員協議会で同業者との研修に参加し学習の機会があり、支援に活かせる取り組みがあった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅での担当ケアマネさん、ご家族、本人と事前面接に同席していただき同時に意見や情報を頂くことを実践している。その後要望についてもお聞きし、できることは情報を伝えて安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時はGHでできることできないことを丁寧に報告し、納得していただく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が継続的に行う希望があるもの受診や外出・買い物等は継続してもらうように、その他の必要なサービスに関しては相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝ってほしい、ありがたいなど利用者様に頼る場面やきっかけを作るように心がけ実践している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅にいたころの対応などを参考にさせてもらうことや相談することで、一緒に支える関係作りを行なっていると思う。	納涼祭や敬老会などの行事は多くのご家族に参加して頂いているほか、受診や外出の支援も行ってもらっています。また、ご家族には2ヶ月に一度、活動の様子をまとめた広報を送付し情報を伝えているほか、居室担当者がお手紙を送りご家族との情報の共有に努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様への連絡は希望があるときは行なっている。ドライブなどなじみの方面に行くこともある。	ご家族にも協力頂き、自宅への外出やお墓参り、外食に出かけたり、ご家族、知人などの面会も来て頂き、関係が継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のやり取りは時に上手に介入できず、不快な思いを残してしまうことがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望で特養に転居された方に対し、家族から転居後亡くなられた報告があり、お通夜に参列させてもらった。共通の思い出ができたと思う。GHに入居間もない頃の生活等の情報も転居施設に報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示ができる方は会話の中で意思確認をしながら支援につなげている。できない方はご家族を通し、本人の希望を確認しあい、希望に合わせた支援を提供している。	ご本人、ご家族の要望を確認し担当者会議にて一人ひとりの介護計画に反映できるよう努めています。ご利用者が表現が困難な場合も、日頃の生活の中でのお話などから意向を確認するようにしています。	ご家族から確認した介護計画の意向については支援経過記録にて、内容が分かるようにされることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の確認や居宅での介護計画書の内容や本人、ご家族との会話の中で情報集めをするようにしている。	入居時に把握したアセスメントだけではなく、日々の生活でご利用者との会話や、ご家族からの情報収集により把握に努めています。3か月に1度、定期的にあセスメントの見直しも行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が現状把握を個々にしていると思うが、知らないうちにばらつきがあるように思う。職員全員で同時に情報共有できることを取り入れたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで作る・モニタリングするという意識が低い職員もいるようだ。計画作成者は職員の意見を聞きだす工夫、計画書に反映するよう工夫している。本人やご家族の意向はしっかりと話し合っている。	3ヶ月に1回モニタリングを実施し、課題の把握や対応方法について検討しています。必要に応じてご家族からの意見等もお聞きし、介護計画に反映させています。	サービス担当者会議にはご家族にも参加を呼びかけ、参加できる方には一緒に参加してもらえようようにされることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は実践できているが、職員間での情報や連絡等の実践は不足と感じる職員もいた。日々のケアが計画書に反映することを一人ひとりが意識し、活かしていけるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の現状に即した柔軟な対応を心がけている。たとえば入院対応や退院対応等。重度化への家族との相談や転居希望等の話		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事えんま市等に参加している。夢の森、大池 白鳥などその他ボランティアの来所で楽しんでいる。重度化してきて思うように外出していないと悩む職員もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が通っていた病院への受診が継続できる。重度化して往診が必要なときはご家族に相談し、適切な医療が受けられるようになっている。GHから一方的に指示することはない。	ご家族に定期受診をお願いしているご利用者もおりますが、ご利用者の受診支援を職員が同行して行うこともあります。また、協力医との連携を図り適切な医療を受けられるよう支援しており、必要に応じ職員も同行しご利用者の状態を報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/w定期的な看護師来所日がある。その他必要に応じて24時間電話対応や来所できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応は家族に任せず、ホームでも必要なものを持っていったり、面会に行き看護師から体調について聞いている。その際もご家族と協力しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向とGHのできることをすり合わせながら支援につなげている。早い段階からは中々聞き出せないこともある。	重度化した場合や終末期の対応については事業所としての指針も作成し、契約時にご家族に同意を頂いているほか、状態に応じて話し合いの機会も設けています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修実施してる。救命救急については職員は日ごろから自信がないと言っているが、研修では適切に対応できていると消防署の方が褒めていた。毎年実施しているので身に付いているのだと実感している。	消防署の方にホームに来てもらい普通救命講習も実施しており、職員が適切な初期対応ができるように指導しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ミーティングや研修で動きを確認しているが、地域との協力体制が手やすいと感じている。職員の中には避難経路など玄関や事務所に張ってあることで動きやすいとの意見もあった。	日中・夜間の火災を想定した避難訓練を行ない、地域の方や地域の消防団にも避難訓練に参加して頂いています。また、災害時を想定した非常用の食品や水も確保されています。	非常用の食品や水については、定期的に確認の機会を設け、在庫の状況も書面にて記載されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できている。職員同士も指摘しあっている。	事業所広報への写真の掲載についても同意書を頂いており、情報保護に関する研修や日々の業務を通して周知徹底に努めています。また個人情報保護マニュアルを整備し、社内規定にも明記されており、対応方法を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢があるときは職員から選択できるように対応している。職員から声をかけて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日は外出をしたり希望に添えるところは支援できている。できないところは家族に相談をかけることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さりげなく支援できている。厚着の方に対しては無理強いすることなく気持ちに添いながら援助している。希望を聞きながら選んでもらえるような支援も心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切や盛り付け味見等一緒に行なう機会を作っている。片付けもしていただき助かっている。	ご利用者の負担にならない範囲で食事の準備や後片付けも一緒に行っています。誕生日メニューを取り入れたり、ご利用者と一緒にご飯やスイーツを作ったり、外食にも出かけるなど、ご利用者に食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足気味の折容赦には1日を通し飲んでもらえるよう支援をしている。お茶だけでなくジュースやポカリなど提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回の柏崎市歯科医師会の歯科検診を受けている。口腔ケアの促しや介助は行なっている。今年度柏崎市の歯科衛生士さんから磨きにくい方の講習を依頼してみようかと考えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンの把握(排泄チェック表)や動きを観察しその人に合わせて支援を行なっている。	ご利用者全員を対象に排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握することで気持ちよく自然に排泄ができるように日々取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、水分摂取や活動を増やすなど意識して行なっている。職員の中には下剤に頼ることが多くなっていると感じる人も要る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤や声掛けのタイミング等で気持ちよく入浴できる工夫は所々あるが、職員の都合で決めてしまうこともある。夜や夕方でも入浴できる工夫をしている。	ホームでの入浴を楽しんで頂けるように必要な方には2人介助で支援したり、季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯を行ったり、入浴剤を使用したりしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の定期的な交換で気持ちよく入眠できるよう、室温等も調整している。夜間不眠の方には安心できる声掛けを提供するよう支援を共有している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等あったときは情報を共有している。全員分効能や副作用を理解しているかは不十分ではないか。用量や用法は薬箱や確認表で正しくできるよう確認しながら行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事は利用者のしたいことなどを聞き取り、取り入れている。日ごろからその方ができる力にあわせお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力で外出や外泊をしている方もいる。介護度の高い方の外出が減っている。天気にあわせドライブに出かけている。コメリの花を見学、近隣に散歩も取り入れている。	天気の良い日は散歩に出掛けており、個別の外出支援も対応できる範囲で行っています。また、季節に合わせてお花見やお祭り、紅葉見学にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は基本できていない。安心してもらう為に小額持っている人はいる。外出や受診で家族と行く人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話も来るし、利用者からも希望で電話をかけている。ホームから家族に連絡する時は本人に途中から変わってもらい家族と会話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレ居室等は表示してあるので、自立されている方は見て動いている。季節感のある手作りのポスターや折り紙等で壁面飾りを行なっている。職員の中にはDS3名もいて共用部分が狭いと思っている人もいますが、工夫次第と感じている職員もいる。	共有スペースには畳の小上がりがあり、ご利用者が洗濯物を畳んだり、お昼寝ができるようになっています。普段の活動の様子をまとめた写真やご利用者の作品も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に向きが違うソファを置く、気の合う利用者様と会話を楽しむことができる。一人で読書を楽しむ小さめのテーブルがある。ユニットではDsの日は狭く感じることもあり、工夫が必要だと思う職員もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や食器等を持参する方もいるが、こだわらない方はGHのものを使用することもある。寝具や写真などは家族が相談しながら設置していて好みのものを活かしている方もいる。	家具等は使い慣れたものを使用していただき、身の回りには好みのものや思い出の品を飾ったり、居心地のよい空間作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が狭いという意見もあるが、手摺やプレートがついていて配慮されていると思う。洗面台は共同でこれも安全だという意見もある。広いより安全に過ごせると利点と考える利用者や家族もいる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない